

総則・評価特別部会の検討状況について

総則・評価特別部会これまでの審議経過

(※) 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 総則・評価特別部会

総則・評価特別部会 審議内容

本日資料との対応

第1回：令和7年9月24日（水）15:30-17:30

- ・ 総則・評価特別部会における主な検討事項について

第2回：令和7年10月14日（火）16:30-19:00

- ・ 目標・内容の構造化・表形式化等について p.2～7

第3回：令和7年11月12日（水）9:30-12:00

- ・ デジタル技術を活用した学習指導要領の活用の利便性の抜本的改善について p. 8～40
- ・ 総則の構成・記載の在り方について p.42～43

第4回：令和7年12月15日（月）16:00-18:30

- ・ 「個に応じた指導」の今後の在り方について p.41～48
- ・ 学習の基盤となる資質・能力について

第5回：令和8年1月19日（月）12:30-15:00

- ・ 柔軟な教育課程の在り方等について（義務教育段階） p.49～52

第6回：令和8年2月19日（木）16:30-19:00

- ・ 各教科等WGにおける資質・能力の構造化の検討状況等について
- ・ 柔軟な教育課程の在り方等について（高等学校段階） p.53～55

第7回：令和8年3月30日（月）13:00-15:30

- ・ 学習評価の在り方について p.56～60

第8回：令和8年4月27日（月）13:00-15:30

- ・ 教員養成等に関する審議の状況等について
- ・ 学習指導要領における部活動・地域クラブ活動の取扱いについて
- ・ 関係WG等の議論を踏まえた総則の在り方について

目標・内容の構造化・表形式化等

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
- ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
 - ➔ こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする

<生きて働く>

知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

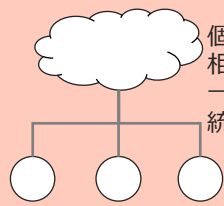
高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

資質・能力の「深まり」の可視化



個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化されながら統合的に理解される

個別の知識や技能

- (例)
- ・比例・反比例の理解
 - ・一次方程式の解き方
 - ・二元一次方程式を関数としてみなせることの理解
 - ・現実の事象を関数でモデル化できることの理解
 - ・二次関数でモデル化できる事象があることの理解

<未知の状況にも対応できる>

思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

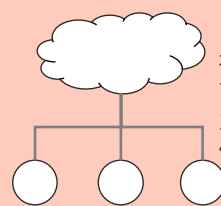
高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の「深まり」の可視化



複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を総合的に働かせる

個別の思考力、判断力、表現力等

- (例)
- ・二つの数量の変化・対応関係を見だし、式やグラフを用いて考察する
 - ・現実の事象にある二つの数量の関係を関数と仮定して処理したりその結果に基づいて判断する



資質・能力の「一体的育成」の可視化

※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」（総称して「高次の資質・能力」）に更新して記載

※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を指し示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

表形式による構造化パターン①（並列パターン）

資質・能力の一体的育成の可視化

資質・能力の深まりの可視化

(1) 項目名		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<p>この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）</p>	<p>この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）</p>
○学年相当	<p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>右に示す思考・判断・表現の過程で、上に示す統合的な理解を獲得するために必要な要素となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）</p>	<p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>左に示す知識及び技能を活用しながら、上に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す（検討項目⑤で詳細を検討）</p>
○学年相当	<p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	<p>知識及び技能に対応する思考力、判断力、表現力等が共通する場合など、分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。</p>
○学年相当	<p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>(小見出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	
(内容の取扱い)		

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。
(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

表形式による構造化パターン② (並行パターン)

資質・能力の深まりの可視化

		○学年相当	○学年相当	○学年相当
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 知識・技能を活用しつつ、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す (検討項目④で詳細を検討)	(1) 項目名	(小見出し) .	(小見出し) .	(小見出し) .
	(2) 項目名	(小見出し) .		
	(3) 項目名	(小見出し) .	(小見出し) .	(小見出し) .
知識及び技能に関する統合的な理解 この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す (検討項目④で詳細を検討)	(1) 項目名	(小見出し) .		
	(2) 項目名	(小見出し) .	(小見出し) .	(小見出し) .
	(3) 項目名	(小見出し) .		
	(4) 項目名	(小見出し) .		
(内容の取扱い)				

想定する指導学年を明示する場合は、「○学年相当」という形で示す。(示さない場合や、複数学年毎に示す場合、単学年毎に示す場合など柔軟に対応)

下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。
(検討項目⑤で詳細を検討)

左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す
(検討項目⑤で詳細を検討)

学年相当に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。

資質・能力の一体的育成の可視化

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント(案)

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核(「見方・考え方」)に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか(系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等)

3. 今後の検討の進め方(案)

- 2. に示した基本的な考え方を踏まえ、今後の検討を以下の通り進めることについてどのように考えるか。

(1)各教科等の目標と「高次の資質・能力」のたたき台の暫定的な整理 (1月中を目途)

- ・各教科等WGにおいて、全教科等・科目について、目標及び見方・考え方、「高次の資質・能力」全体の一覧を修正の余地のあるたたき台として整理
※高等学校の専門教科・科目については科目数が非常に多いため柔軟に対応

(2)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整① (2月中を目途)

- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において、(1)で作成した一覧について議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに伝達

(3)個別の資質・能力の検討と「高次の資質・能力」の精査 (3月中を目途)

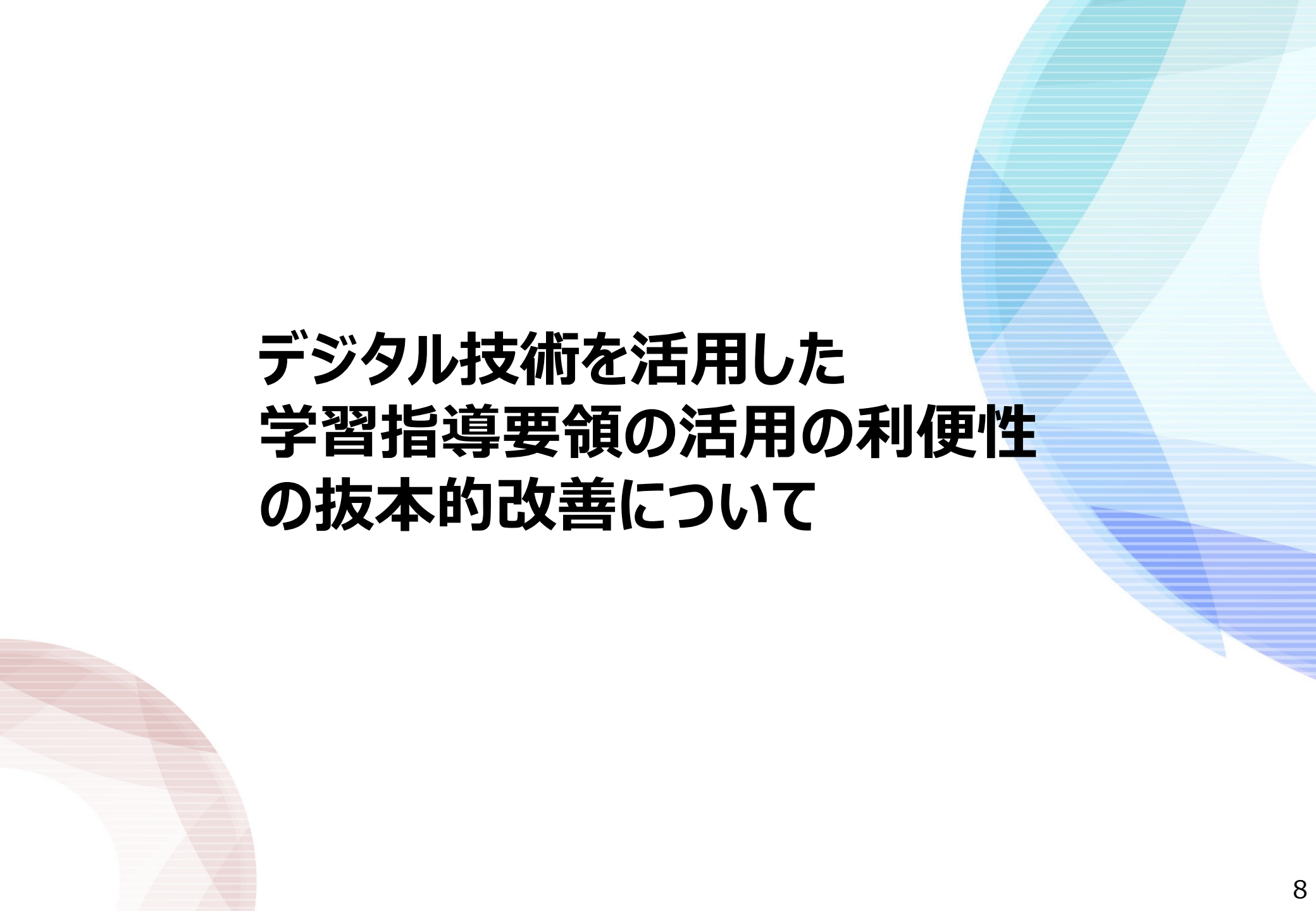
- ・各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討
- ・整理した個別の資質・能力の在り方を踏まえて、「高次の資質・能力」の妥当性を精査し、必要に応じた修正を行う
- ・併せて、「高次の資質・能力」を掴みやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う

(4)総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会における調整② (時期は進捗に応じ検討)


- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会において(3)のプロセスで修正した「高次の資質・能力」全体の一覧や、当該教科等における表形式による構造化の在り方の議論を行い、論点整理の趣旨の実現の観点から必要な調整等について各WGに伝達

(5)各教科等WG、総則・評価特別部会における最終調整 (時期は進捗に応じ検討)

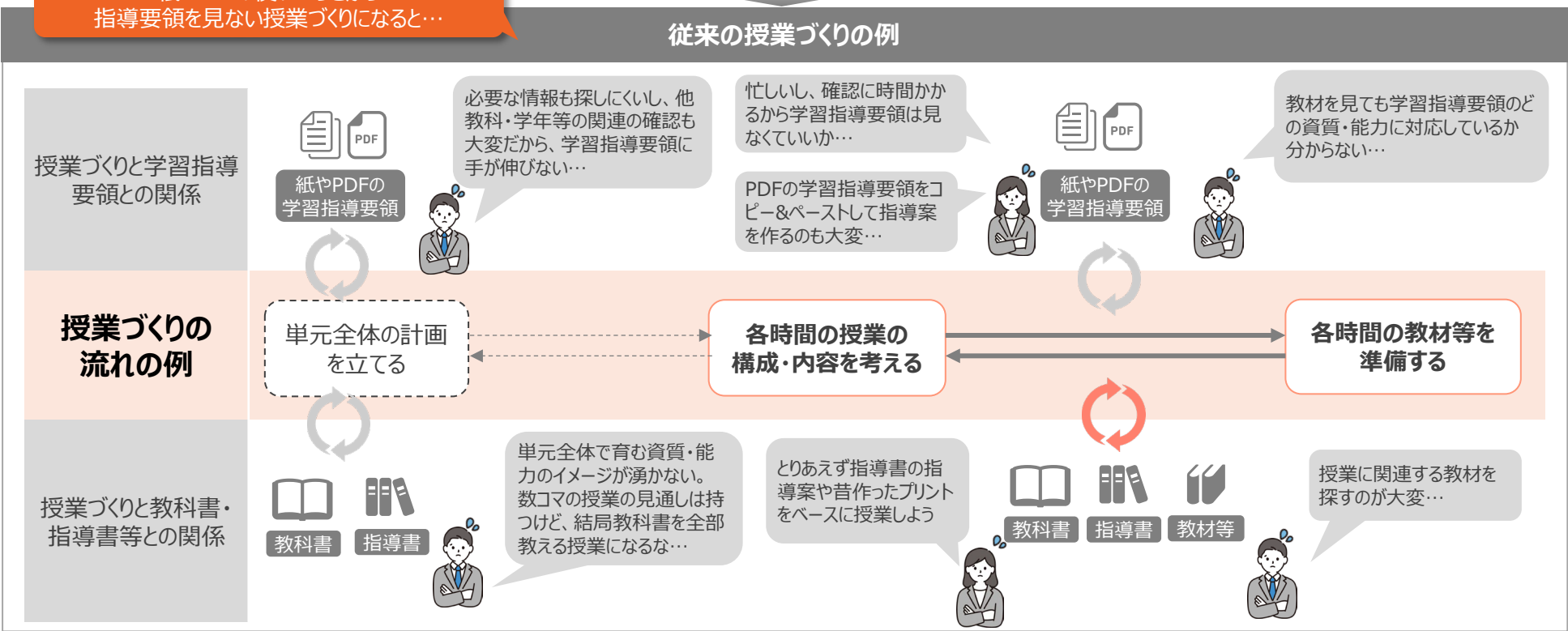
- ・総則・評価特別部会及び教育課程企画特別部会での議論などを踏まえ、WGでのまとめに向けた検討を実施
- ・総則・評価特別部会においては、各教科等WGの検討状況を踏まえつつ、各教科等の標準授業時数や標準単位数の在り方を踏まえたまとめの検討



デジタル技術を活用した 学習指導要領の活用の利便性 の抜本的改善について

紙・PDFによる課題	 <p>必要な情報の探しにくさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の見たい情報がどこにあるかわかりづらい 特定のキーワードで検索しづらい 	<p>対応関係や関連性の分かりにくさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当外の教科や学年・学校種等との関連性がわかりづらい 教科書や教材等と学習指導要領との対応がわかりづらい 	<p>データの活用のしにくさ</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導案作成時などの引用に手間がかかる AIに読み込ませにくい
------------	--	---	---

紙・PDFの使いづらさから
 指導要領を見ない授業づくりになると...



資質・能力ベースの授業づくりになっておらず、**教科書「を」教える授業や、本時主義の授業**になりやすい

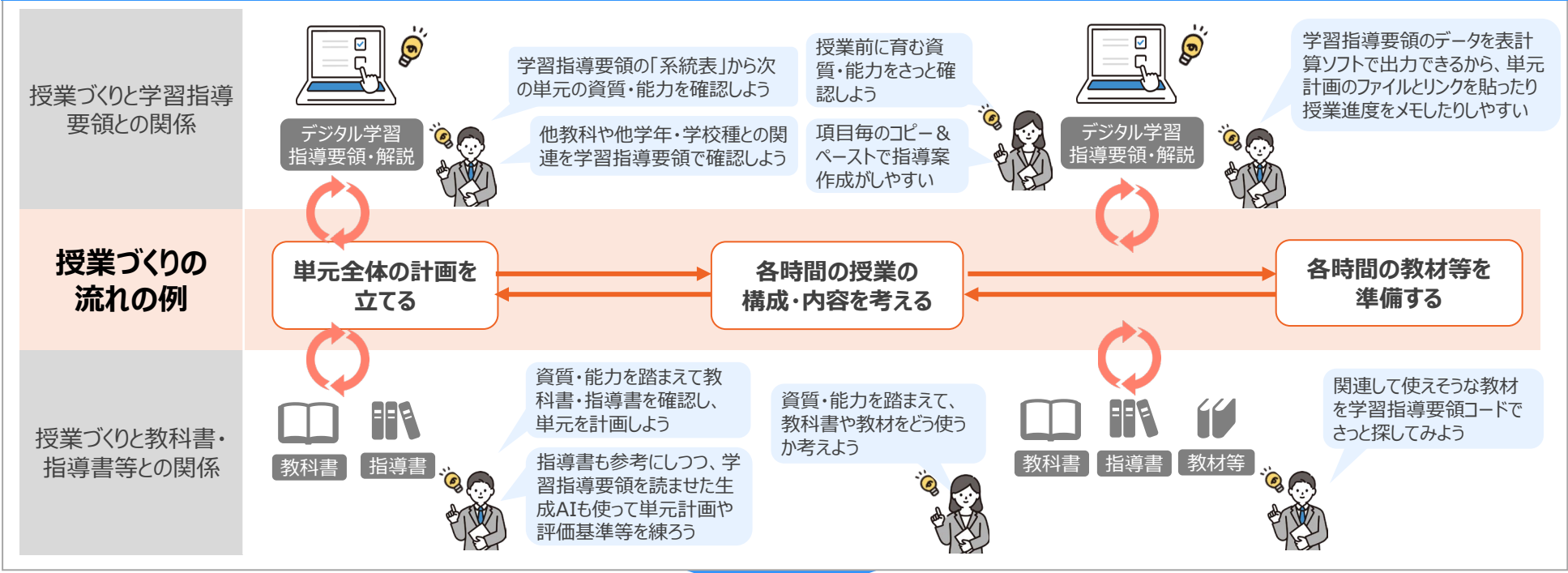


デジタル学習指導要領による改善

- 教科書や教材等から学習指導要領の**該当箇所がすぐに辿れる**
- 教科・学年で**すぐに絞り込める、系統図から見たい項目を選べる**
- 担当外の**教科や学年・学校種等との関連性が俯瞰**できる
- 該当のキーワードで**すぐに検索**できる
- AIに読み込ませて活用**しやすい
- 欲しいレイアウト・データ形式で出力して加工して利用**できる
- 学習指導要領コード**を使って必要な教材を探しやすい

デジタル化してUIを改善すると…

授業づくりで可能になること(例)



負担なく学習指導要領を確認・活用でき、
資質・能力をベースにした単元や題材の構想を含めた授業づくりが行いやすくなる。



デジタル学習指導要領に必要な機能の一例

デジタル学習指導要領による改善

※前頁再掲



- 1 2
- 教科書や教材等から学習指導要領の**該当箇所がすぐに辿れる**
- 教科・学年で**すぐに絞り込める、系統図から見たい項目を選べる**

- 3
- 担当外の**教科や学年・学校種等との関連性が俯瞰**できる
- 該当のキーワードで**すぐに検索**できる

- 4
- AIに読み込ませて**活用**しやすい
- 欲しいレイアウト・データ形式で**出力して加工して利用**できる
- 学習指導要領コードを使って必要な教材を探しやすい

1 必要な情報の探しやすさ

- 画面構成が、多忙な教師が触ってみたいと思える、**シンプルで直感的に操作**できるものとなっている
- 確認したい**学年・教科での絞り込み**や、**キーワード等での検索**ができ、その結果が**レスポンスよく表示**できる

- 学習指導要領本体と解説が、**一体的に表示・参照**できる
- 学習指導要領コードが**附番**され、検索できるようになっていることで、研究授業などで学習指導要領の**該当箇所をすぐに共通認識**することができる



2 教科書や教材等との円滑なアクセス

- 学習指導要領コード等も活用した、学習指導要領と**教科書・教材等との円滑な相互アクセス**ができる

- 教師が日々の授業づくりを行うにあたって参考となるような、NHK for Schoolをはじめとした**様々な教材等への円滑なアクセス**ができる



3 教科等間や学年・学校種間の記載の俯瞰

- 複数の教科や学年・学校種を選択**して絞り込んだ場合に、**その結果が一覧的に表示**できる
- 単元等に関連する**キーワードで検索**した場合に、学習指導要領本体と解説の該当の記載を**教科や学年・学校種に関わらず、横断的に一覧表示**できる
- 各教科における、**学年・学校種間の指導内容や資質・能力等の系統性を俯瞰**できるような、**一覧的な内容の構成が表示**できる



4 学習指導要領データの活用しやすさの向上

- 教材サイト等ですぐに検索できるよう、**学習指導要領コードをワンクリックで簡単にコピー**できる
- 文書作成ソフトや表計算ソフトなど多様な形式で学習指導要領データを出力し、レイアウトの変更などができることで、**授業の進捗管理のためにメモを残したり、指導案の作成などが簡単かつ柔軟に行える**ようになる
- 学習指導要領データの活用を更に広げるために、**生成AI等にも読み込ませやすいような形式**でデータを出力できる



デジタル学習指導要領イメージ

【ご覧いただくに当たっての留意点】

- 本資料は、デジタル学習指導要領により実現できることについて、ある程度のイメージを持って頂けるように参考として作成したものであり、この通りに開発するものではありません
- 特に各教科等の内容部分については、現在までの総則・評価特別部会における議論を踏まえた表形式のレイアウトを用いつつ、現行学習指導要領の記載を機械的に当てはめて作成したものです。今回の改訂においては、全体として分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指すこととしており、実際の画面は一層シンプルなものになることを想定しています

デジタル学習指導要領イメージ シーン一覧

- シーン 1 学習指導要領本体と該当する個所の解説等を一体的に確認したい
- シーン 2-1 育成を目指す資質能力の連続性、各教科の系統性を確認したい（学校種をまたいだ検索）
- シーン 2-2 育成を目指す資質能力の連続性、各教科の系統性を確認したい（教科をまたいだ検索）
- シーン 2-3 育成を目指す資質能力の連続性、各教科の系統性を確認したい（キーワードでの検索）
- シーン 2-4 育成を目指す資質能力の連続性、各教科の系統性を確認したい（系統表からの検索）
- シーン 3 指導用図書の記事と関連する学習指導要領の内容を確認したい
- シーン 4 学習指導要領で確認した内容に関連する外部教材を確認したい
- シーン 5 学習指導要領に記載の学習内容をもとに単元計画や指導計画を作成したい



デジタル技術を活用したUIの抜本的な改善を通じて、日々の授業作りに使いやすい学習指導要領を実現し、学習指導要領に示す資質・能力の理解に基づく豊かな授業づくりに繋げていく

本画面は現時点イメージです

- 教科「理科」、学年段階「小学校 3 学年」を選択して、検索ボタンを押下します。

学習指導要領検索

教科 理科 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 数学 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作	学年段階 小学校3学年 <input type="checkbox"/> 小学校 1 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 2 学年 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校 3 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 4 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 5 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 6 学年 <input type="checkbox"/> 中学校 1 学年 <input type="checkbox"/> 中学校 2 学年	キーワード キーワード入力	学習指導要領コード コード入力
---	---	-------------------------	---------------------------

検索

学習指導要領全文表示

- [小学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [中学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [高校学習指導要領 \(総則・前文含む\) 解説](#)

関連サイト

[NHK for School](#)

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育

- 教科「理科」と学年段階「小学校 6 学年」「中学校 1 学年」を選択して、検索ボタンを押下します。

学習指導要領検索

教科 理科 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 数学 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作	学年段階 小学校6学年 中学校1学年 <input type="checkbox"/> 小学校 1 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 2 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 3 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 4 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 5 年生 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校 6 年生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学校 1 年生 <input type="checkbox"/> 中学校 2 年生	キーワード キーワード入力	学習指導要領コード コード入力
--	--	-------------------------	---------------------------

検索

学習指導要領全文表示

小学校学習指導要領（総則・前文含む）	解説
中学校学習指導要領（総則・前文含む）	解説
高校学習指導要領（総則・前文含む）	解説

関連サイト

NHK for School
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育
図画工作	保健体育	芸術

- 教科「算数」「理科」と学年段階「小学校3学年」を選択して、検索ボタンを押下します。

学習指導要領検索

教科 算数 理科 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作	学年段階 小学校3学年 <input type="checkbox"/> 小学校1学年 <input type="checkbox"/> 小学校2学年 <input checked="" type="checkbox"/> 小学校3学年 <input type="checkbox"/> 小学校4学年 <input type="checkbox"/> 小学校5学年 <input type="checkbox"/> 小学校6学年 <input type="checkbox"/> 中学校1学年 <input type="checkbox"/> 中学校2学年	キーワード <input type="text" value="キーワード入力"/>	学習指導要領コード <input type="text" value="コード入力"/>
<input type="button" value="検索"/>			

学習指導要領全文表示

- [小学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [中学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [高校学習指導要領 \(総則・前文含む\) 解説](#)

関連サイト

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育

- キーワード「季節」を入力して、検索ボタンを押下します。

学習指導要領検索

教科 <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作	学年段階 <input type="checkbox"/> 小学校 1 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 2 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 3 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 4 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 5 学年 <input type="checkbox"/> 小学校 6 学年 <input type="checkbox"/> 中学校 1 学年 <input type="checkbox"/> 中学校 2 学年	キーワード <input type="text" value="季節"/>	学習指導要領コード <input type="text" value="コード入力"/>
---	---	---	--

検索

学習指導要領全文表示

- [小学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [中学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)解説](#)
- [高校学習指導要領 \(総則・前文含む\) 解説](#)

関連サイト

- [NHK for School](#)
- xxx
- xxx
- xxx
- xxx
- xxx
- xxx
- xxx

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育

- 学習指導要領と学習指導要領解説から、「季節」にヒットする個所が表示されます。

Home > 学習指導要領検索結果

[関連サイト](#) [Q&A](#)

教科 **学年段階** **キーワード** **学習指導要領コード**
 季節

“季節”の検索 (××件)

理科	内容	第4学年相当	2 内容	B 生命・地球	(2) 季節と生物	身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
理科	内容	第4学年相当	2 内容	B 生命・地球	(2) 季節と生物	ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 (ア) 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 (イ) 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。
理科	内容	第4学年相当	2 内容	B 生命・地球	(2) 季節と生物	イ 身近な動物や植物について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、季節ごとの動物の活動や植物の成長の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。
生活	内容	第1学年及び第2学年相当	2 内容	身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	-	(5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
家庭	内容	第5学年及び第6学年相当	1 内容	B 衣食住の生活	(4) 衣服の着用と手入れ	ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解すること。 (イ) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること。

<< < **1** **2** > >>

- 「系統表」の理科を選択します。

学習指導要領検索

<p>教科</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数 <input type="checkbox"/> 数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作 </div>	<p>学年段階</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 小学校 1 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 2 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 3 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 4 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 5 年生 <input type="checkbox"/> 小学校 6 年生 <input type="checkbox"/> 中学校 1 年生 <input type="checkbox"/> 中学校 2 年生 </div>	<p>キーワード</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <input type="text" value="キーワード入力"/> </div>	<p>学習指導要領コード</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <input type="text" value="コード入力"/> </div>
--	--	---	---

学習指導要領全文表示

小学校学習指導要領 (総則・前文含む)	解説
中学校学習指導要領 (総則・前文含む)	解説
高校学習指導要領 (総則・前文含む)	解説

関連サイト

NHK for School
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx
xxx

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育
図画工作	保健体育	芸術

- 理科の「系統表」が表示されます。

Home > 系統表 (小学校理科)

国語

社会

算数

理科

出力

校種	学年	エネルギー			粒子			
		エネルギーの捉え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	
小学校	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 風とゴムの力の働き 風の力の働き ゴムの力の働き 	<ul style="list-style-type: none"> 光と音の性質 光の反射・集光 光の当て方と明るさや暖かさ 音の伝わり方と大小 	<ul style="list-style-type: none"> 磁石の性質 磁石に引き付けられる物 異極と同極 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の通り道 電気を通すつながり方 電気を通す物 			<ul style="list-style-type: none"> 物と重さ 形と重さ 体積と重さ
	第4学年		<ul style="list-style-type: none"> 電流の働き 乾電池の数とつながり方 		<ul style="list-style-type: none"> 空気と水の性質 空気の圧縮 水の圧縮 			
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 振り子の運動 振り子の運動 	<ul style="list-style-type: none"> 電流がつくる磁力 鉄心の磁化、極の変化 電磁石の強さ 			<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方 (溶けている物の量、(中)から移行) を含む) 重さの保存 物が水に溶ける量の限度 物が水に溶ける量の変化 		
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> てこの規則性 てこのつり合いの規則性 てこの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 電気の利用 発電 (光電池、(小4から移行) を含む)、蓄電 電気の変換 電気の利用 		<ul style="list-style-type: none"> 燃焼の仕組み 燃焼の仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液の性質 酸性、アルカリ性、中性 気体が溶けている水溶液 金属を変化させる水溶液 		
小学校	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 力の働き 力の働き (2力のつり合い、(中3から移行) を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 光と音 光の反射・屈折 (光の色を含む) 凸レンズの働き 音の性質 		<ul style="list-style-type: none"> 物質のすがた 身の回りの物質とその性質 気体の発生と性質 	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液 水溶液 	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化 状態変化と物質の融点 	
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 電流 回路と電流、電圧 電流・電圧と抵抗 電気とそのエネルギー (電気による発熱、(小6から移行) を含む) 静電気と電流 (電子、放射線を含む) 			<ul style="list-style-type: none"> 物質の成り立ち 物質の分離 原子・分子 	<ul style="list-style-type: none"> 化学変化 化学変化 化学変化における酸化と還元 化学変化と熱 		
		<ul style="list-style-type: none"> 電流と磁界 電流がつくる磁界 磁界中の電流が受ける力 電磁誘導と発電 				<ul style="list-style-type: none"> 化学変化と物質の質量 化学変化と質量の保存 質量変化の規則性 		

- 系統表の項目にマウスを近づけるとハイライトされます。

Home> 系統表 (小学校理科)

国語

社会

算数

理科

出力

校種	学年	エネルギー			粒子			
		エネルギーの授え方	エネルギーの変換と保存	エネルギー資源の有効利用	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	
小学校	第3学年	風とゴムの力の働き ・風の力の働き ・ゴムの力の働き	と量の性質 光の反射・集光 光の当て方と明るさや暖かさ 音の伝わり方と大小	磁石の性質 ・磁石に引き付けられる物 ・異極と同極	電気の通り道 ・電気を通すつなぎ方 ・電気を通す物			物と量さ ・形と量さ ・体積と量さ
	第4学年		電流の働き ・乾電池の数とつなぎ方		空気と水の性質 ・空気の圧縮 ・水の圧縮			
	第5学年	振り子の運動 ・振り子の運動	電流がつくる磁力 ・鉄心の磁化、極の変化 ・電磁石の強さ				物の溶け方 (溶けている物の量、(中)から移行) を含む) ・量さの保存 ・物が水に溶ける量の限度 ・物が水に溶ける量の変化	
	第6学年	てこの規則性 ・てこのつり合いの規則性 ・てこの利用	電気の利用 ・発電 (光電池、(小4から移行) を含む)、蓄電 ・電気の変換 ・電気の利用		燃焼の仕組み ・燃焼の仕組み	水溶液の性質 ・酸性、アルカリ性、中性 ・気体が溶けている水溶液 ・金属を変化させる水溶液		
第1学年	力の働き ・力の働き (2力のつり合い、(中3から移行) を含む) 光と音 ・光の反射・屈折 (光の色を含む) ・凸レンズの働き ・音の性質			物質のすがた ・身の回りの物質とその性質 ・気体の発生と性質	水溶液 ・水溶液	状態変化 ・状態変化と物質の融点		
	電流 ・回路と電流、電圧 ・電流、電圧と抵抗 ・電気とそのエネルギー (電気による発熱、(小6から移行) を含む) ・静電気と電流 (電子、放射線を含む)			物質の成り立ち ・物質の分離 ・原子・分子	化学変化 ・化学変化 ・化学変化における酸化と還元 ・化学変化と熱			
第2学年	電流と磁界 ・電流がつくる磁界 ・磁界中の電流が受ける力 ・電磁誘導と発電				化学変化と物質の質量 ・化学変化と質量の保存 ・質量変化の規則性			

本画面は現時点イメージです

- コードが入力された状態の検索画面が表示されるので、検索ボタンを押下します。

学習指導要領検索

教科

- 国語
- 社会
- 算数
- 数学
- 理科
- 生活
- 音楽
- 図画工作

学年段階

- 小学校 1 年生
- 小学校 2 年生
- 小学校 3 年生
- 小学校 4 年生
- 小学校 5 年生
- 小学校 6 年生
- 中学校 1 年生
- 中学校 2 年生

キーワード

キーワード入力

学習指導要領コード

xxxx (コード)

検索

学習指導要領全文表示

[小学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)](#) [解説](#)

[中学校学習指導要領 \(総則・前文含む\)](#) [解説](#)

[高校学習指導要領 \(総則・前文含む\)](#) [解説](#)

[NHK for School](#)

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

xxx

系統表

小学校	中学校	高等学校
国語	国語	国語
社会	社会	地理歴史
算数	数学	公民
理科	理科	数学
生活	音楽	理科
音楽	美術	保健体育
図画工作	保健体育	芸術

本画面は現時点イメージです

- ・ 遷移した「NHK for School」のサイトの検索画面にさきほどコピーした学習指導要領コードを貼り付け、検索ボタンを押下します。



いま役に立つ動画



注：

- 現在は、NHK for Schoolの検索窓から学習指導要領コードで動画を検索することはできません。
- 将来、NHK for Schoolで学習指導要領コードを通じた検索を行うことができるようにならないかについては、NHKと交渉中です。

本画面は現時点イメージです

- ・ 遷移した「NHK for School」のサイトの検索画面にさきほどコピーした学習指導要領コードを貼り付け、検索ボタンを押下します。



本画面は現時点イメージです

- 入力した学習指導要領コードに紐づく学習コンテンツが表示されます。



個に応じた学習過程の充実について

現行の総則の俯瞰イメージと課題・対応策（小中学校の例）

令和7年1月12日
総則・評価特別部会(第3回)
【資料2】P3

第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割

1. 教育課程編成の原則
2. 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
(1)確かな学力 (2)豊かな心 (3)健やかな体
3. 育成を目指す資質・能力
(1)知識及び技能 (2)思考力,判断力,表現力等 (3)学びに向かう力,人間性等
4. カリキュラム・マネジメントの充実

第2 教育課程の編成

1. 各学校の教育目標と教育課程の編成
2. 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
(1)学習の基盤となる資質・能力 (2)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力
3. 教育課程の編成における共通的事項
(1)内容等の取扱い (2)授業時数等の取扱い (3)指導計画の作成等に当たっての配慮事項
4. 学校段階等間の接続
(1)前の学校段階との接続 (2)後の学校段階との接続

第3 教育課程の実施と学習評価

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
(2)言語活動の充実
(3)コンピュータ等や教材・教具の活用
(4)見通しを立てたり, 振り返りする学習活動
(5)体験活動
(6)児童の興味・関心を活かした自主的, 自発的な学習の促進
(7)学校図書館, 地域の公共施設の利活用
2. 学習評価の充実
(1)指導の評価と改善 (2)学習評価に関する工夫

第4 児童の発達の支援

1. 児童の発達を支える指導の充実
(1)学級経営,児童の発達の支援 (2)生徒指導の充実 (3)キャリア教育の充実
(4)指導方法や指導体制の工夫改善など個に応じた指導の充実
2. 特別な配慮を必要とする児童への指導
(1)障害のある児童などへの指導 (2)海外から帰国した児童や外国人の児童の指導
(3)不登校児童への配慮

第5 学校運営上の留意事項

1. 教育課程の改善の学習評価等
2. 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育推進上の配慮事項

1. 道徳教育の指導体制と全体計画
2. 指導内容の重点化
3. 豊かな体験活動の充実といじめの防止
4. 家庭や地域社会との連携

課題①

柔軟な教育課程編成の位置付けに係る課題

- ・第1の3. の後に、「児童生徒を包摂する教育課程の編成・実施」（仮称）等の項目を設け、柔軟な教育課程編成・実施の必要性を位置付けてはどうか
- ・その上で「第2」の3. は、現在、内容、授業時数、指導計画で構成されているところ、今回、調整授業時数制度を創設し、授業時数に関連する記載を充実させることを踏まえ、
 - 3. を「内容・指導計画に関する共通的事項」（仮称）とし、授業時数の取扱いを分離する、
 - 新たに4. として「授業時数に関する共通的事項」（仮称）の項目を設け、調整授業時数制度等の運用の具体を含め、授業時数全体について記載する、こととしてはどうか。
これにより、具体的に何を柔軟に取り扱うことができ、何はできないのか、が分かりにくいという学校現場の声に答えることにもつながるのではないか。

課題②

学習の自己調整等の位置付けに係る課題

- ・児童生徒の学習の自己調整に係るものや、教師の個に応じた指導に係るものは、「第3」にまとめ、「児童（生徒）が主体的に学ぶことができる学習環境の構築」（仮称）等の項目を設けていくことについてどのように考えるか。（※）論点整理を踏まえた「個別最適な学び」の整理を含む

課題③

多様な子供達を包摂する教育課程編成・実施を日常にするための課題

- ・「第4」のうち「特別な配慮を必要とする児童への指導」については、今後子供一人一人に応じた教育課程の編成を新設・拡充する方向で議論しており、これらが特別なことではなく日常の教育課程編成として行われるよう、「第2」に内容を移行して項目を設けることについてどのように考えるか。

現行の総則の俯瞰イメージと課題・対応策（高等学校の例）

第1 高等学校教育の基本と教育課程の役割

1. 教育課程編成の原則
2. 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
(1)確かな学力 (2)豊かな心 (3)健やかな体
3. 育成を目指す資質・能力
(1)知識及び技能 (2)思考力,判断力,表現力等 (3)学びに向かう力,人間性等
4. 就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導
5. カリキュラム・マネジメントの充実

第2 教育課程の編成

1. 各学校の教育目標と教育課程の編成
2. 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
(1)学習の基盤となる資質・能力
(2)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力
3. 教育課程の編成における共通的事項
(1)各教科・科目及び単位数等
(2)各教科・科目の履修等
(3)各教科・科目等の授業時数等
(4)選択履修の趣旨を生かした適切な教育課程の編成
(5)各教科・科目等の内容等の取扱い
(6)指導計画の作成に当たって配慮すべき事項
(7)キャリア教育及び職業教育に関して配慮すべき事項
4. 学校段階等間の接続
(1)中学校教育との接続及び中等教育学校等の教育課程
(2)義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る工夫
(3)高等学校卒業以降の教育や職業との円滑な接続を図る工夫
5. 通信制の課程における教育課程の特例
(1)添削指導の回数及び面接指導の単位時間数の標準
(2)学校設定教科に属する科目の添削指導の回数等
(3)理数に属する科目及び総合的な探究の時間の添削指導の回数等
(4)面接指導の授業の1単位時間
(5)多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除
(6)特別活動の指導時間数

課題①

「第1」に柔軟な教育課程編成・実施の必要性を位置付けてはどうか。
また、「第2」の教育課程の編成における共通的事項についても、「内容・指導計画等」に関するものと、「単位・授業時数等」に関するものを項目を分けて示してはどうか。

第3 教育課程の実施と学習評価

1. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
(2)言語環境の整備と言語活動の充実
(3)コンピュータ等や教材・教具の活用
(4)見通しを立てたり,振り返ったりする学習活動
(5)体験活動
(6)学校図書館,地域の公共施設の利活用
2. 学習評価の充実
(1)指導の評価と改善
(2)学習評価に関する工夫

課題②

「第3 教育課程の実施と学習評価」にまとめ、「多様な生徒が主体的に学ぶことができる学習環境の構築」(仮称)等の項目を設けていくことについてどのように考えるか。

第4 単位の修得及び卒業の認定

1. 各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位の修得の認定
(1)単位の修得の認定
(2)総合的な探究の時間の単位の修得の認定
(3)各教科・科目の単位数の配当
2. 卒業までに修得させる単位数
3. 各学年の課程の修了の認定

第5 生徒の発達の支援

1. 生徒の発達を支える指導の充実
(1)ホームルーム経営,生徒の発達の支援
(2)生徒指導の充実
(3)キャリア教育の充実
(4)生徒の特性等の把握と伸長等
(5)指導方法や指導体制の工夫改善など個に応じた指導の充実
(6)学習の遅れがちな生徒の指導における配慮事項
2. 特別な配慮を必要とする児童への指導
(1)障害のある児童などへの指導
(2)海外から帰国した児童や外国人の児童の指導
(3)不登校児童への配慮

課題③

「特別な配慮を必要とする児童への指導」については,これらが特別なことではなく日常の教育課程編成として行われるよう,「第2」に内容を移行することとしてはどうか。

第6 学校運営上の留意事項

1. 教育課程の改善と学校評価,教育課程外の活動との連携等
2. 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第7 道徳教育に関する配慮事項

1. 道徳教育の指導体制と全体計画
2. 道徳教育推進上の留意事項
3. 豊かな体験活動の充実といじめの防止
4. 家庭や地域社会との連携

「個に応じた学習過程の充実」等に盛り込む要素（案）

※本資料はあくまで盛り込むべき要素の案を示したものであり、実際の総則及び解説の文章は議論を踏まえて引き続き検討。

解説で記載する要素例（案）

総則に盛り込む要素（案）

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 (主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善) 中略

(個に応じた学習過程の充実)

○多様な特性等を有する児童生徒に主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、個に応じて学習過程の工夫を図る

○その際、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを持ち、よりよく学ぶことができるよう方略を工夫したり、振り返ったりしながら、自らに適した学習過程となるよう調整できる機会を計画的に取り入れるよう工夫する

○また、知識及び技能を生きて働くものとして確実に習得していくことも含め、児童生徒が個に応じて資質・能力を身に付けることができるよう、教師による学習環境の設定、指導方法、指導体制上の工夫改善を行うなど、個に応じた指導の充実を図る

(デジタル学習基盤等の効果的な活用)

○コンピュータや情報通信ネットワークなどで構成されるデジタル学習基盤は、多様な特性等を有する児童生徒に主体的・対話的で深い学びを実現する基礎となるものであり、これらを児童生徒が日々の学習や学校生活において活用するのに必要な環境を整えとともに、適切に活用した学習活動の充実を図る

情報機器の基本的操作やプログラミング活動について（小学校のみ）は、各教科等における充実に伴い、総則における扱いの整理が必要

○また、各種の図書資料・統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る

全体として、趣旨や方針を端的に示し、具体的な留意事項等は可能な限り解説に記載する

・児童生徒の多様な特性や発達段階等の実態を踏まえて、全ての児童生徒に主体的・対話的で深い学びが実現できているかという視点を持つことの重要性
・そうした視点から個に応じた学習過程の工夫を行っていく上で、個別最適に学ぶ場面と協働的に学ぶ場面それぞれのよさを活かし、一斉・協働・個別といった学習場面を効果的に配置するなど、教師が必要な指導性を発揮しつつ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することの重要性
・その際、孤立した学びに陥ったり、集団の中で個が埋没することのいずれも避けるとともに、教師が必要な支援や指導を行わないといったことに繋がらないよう留意することの必要性
・「深い学び」を実現する上で、教師の一斉による指導も効果的に実施するとともに、児童生徒自身が自ら考え知識等を構成することができるようにしていくことの重要性

・1コマで学習を完結させるのではなく、単元・題材等のまとまりで学習過程を工夫することの重要性
・「学びに向かう力・人間性等」を4つの要素で整理したこととの関係
・児童生徒の学習過程において、見通しを持つ（学習前）・方略を工夫しながら学習を進める（学習中）・学習の成果を外化し振り返って次の学習に繋げる（学習後）といったプロセスを児童生徒が円滑に行うことができるような教師の指導や支援の重要性
・よりよく学習するための方略を、教師や他者の取組から学びながら自ら工夫し、徐々に高度化する視点
・こうした学校での学習を経て、家庭学習の内容を自律的に決定できるようにしていくことなど、家庭学習を含めて学習習慣を形成し、学びを広げ深めていく視点 等

・児童生徒の学習の調整を含めて、児童生徒理解に基づく教師による単元全体の構想の必要性
・児童生徒が学習に前向きな見通しを持つことができるよう、単元計画を児童生徒にあらかじめ分かりやすく共有することや、学習意欲を高める工夫等の重要性
・児童生徒が学習を工夫しながら進められるよう、子供の学習過程を見越した適切な課題や多様な学習活動の展開を可能とする学習材の準備、つまずきを予想した足場かけ、相互に学び合いながら安心して学習ができる環境構築、効果的な学習に関する科学的な知見も踏まえた学習方略の指導・年間指導計画の作成等の重要性
・学習前に分かりやすい評価計画・評価基準を示すことや、学習中・学習後等に学習状況をメタ認知して振り返る機会を設けること等の重要性
・児童生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう、児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなどの工夫を行うことの重要性
・学習内容の習熟の程度に応じた学習等、現行の「個に応じた指導」で示している工夫例
・小学校の専科指導や交換授業、チーム・ティーチング等の指導体制の工夫例 等

デジタル学習基盤の役割

①多様な児童生徒にとっての包摂性を高めながら、教師に持続可能な形で主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成に資する学習環境を実現できること
②教師の指導のツールとしての側面に加え、学習者の学習ツールとしての側面を有しており、児童生徒にとっての学びやすさの向上や合理的配慮の基盤として働くこと
③デジタルカリキュラム等の二項対立に陥らず、デジタルも最大限活用して一人一人の豊かな学びを充実させる視点が重要であること
・デジタル学習基盤の環境整備における設置者の積極的役割 等

趣旨の
明確化

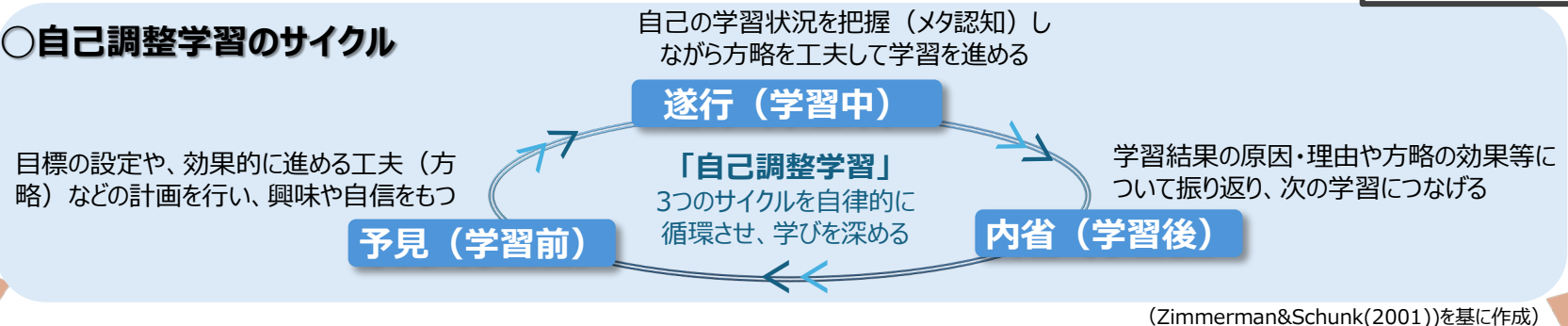
児童生徒に
よる自己調
整

教師による指
導・学習環境
構築

デジタル学習
基盤等の役
割・活用

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

○自己調整学習のサイクル



自己調整学習の効果
を高め、学習成果
に繋がりやすくする

○自己調整学習の効果を高める方略の例

参考資料⑧参照

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習方略

学習内容をよりよく理解し、定着させることができるよう学習中の情報処理の方法等を工夫する方略

参考資料⑨参照

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

（Usher&Schunk(2018))を基に作成

子供達の方略
の工夫・発揮を
支える

○方略の指導に関する類型

※研究では、教師による方略の直接的な教授の有効性が示されている

直接的な指導

「～しましょう」等の形で発揮させたい方略を直接的に指導

間接的な指導

「～したいときはどうすればよいか」等の形で、方略を間接的に気づかせる

学習環境設定の工夫

教師による指導は行わず、子供自身が自然と方略を工夫するような学習環境を整える

（Dignath et al. (2022)) を基に作成

◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例（単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に記載）

参考資料⑩参照

単元や題材の設計

- ・ 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計
- ・ 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化
- ・ 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置

**多様な学習材料の提供
足場かけの準備**

- ・ 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供
- ・ 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供
- ・ 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等

学習環境の整備

- ・ 安心して学習に取り組める空間づくり
- ・ デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする 環境づくり 等

教師による自己調整学習の促進の例

(Dignath et al. (2022) "Assessing How Teachers Enhance Self-Regulated Learning Coding Guide"を基に作成)

動機づけ方略

質の高い学習を開始・継続することができるよう、自らの動機づけ（モチベーション）や感情を整える方略

学習課題の意義づけ・価値づけ

取り組む学習が、目標に照らして努力に見合う価値があると実感することで動機づけを高める

学習環境の調整

自身が学習に集中できるように学習環境を整える

他者との協働や支援の活用

友達に聞く、協働する、教師や保護者の支援を求めるなど、学習を進める上で必要な社会的リソースを整える

自己肯定感の維持

学習成果の要因を、変えられない又は外部的な要因（自らの能力等）に求めず、自分で変えられる又は内部的な要因（学習方略等）で捉え、自己肯定感を支える

意思や注意のコントロール

学習に関係のない思考を抑え、学習の目標を達成するための活動に注意を振り向ける

学習方略

学習内容をよりよく理解し、定着するよう学習途中の情報処理の方法等を工夫する方略

反復方略

学習した内容が長期記憶として定着するまで、繰り返し学習できるようにする

精緻化方略

理由や意味を付け加えるなど、新たな学習内容を、既存の知識と関連付けて深く理解できるように工夫する

組織化方略

同じ点に着目して情報を整理する、内容を要約するなど、新たな学習内容の中で関連付けを行い、体系的に理解できるように工夫する

メタ認知的方略

学習方略がうまく働きよりよい学習成果に結びつくよう、自身の学習過程の計画・把握・調整・振り返り等を適切に行う方略

計画方略

学習活動に先んじて、学習過程の計画、目標設定、学習方略の選択等を行う

モニタリング方略

学習過程において理解度等を自分に確認することで、学習の進捗を確認する

評価方略

実際の学習活動終了後、学習の進捗を当初の学習目標と照らし合わせる

調整方略

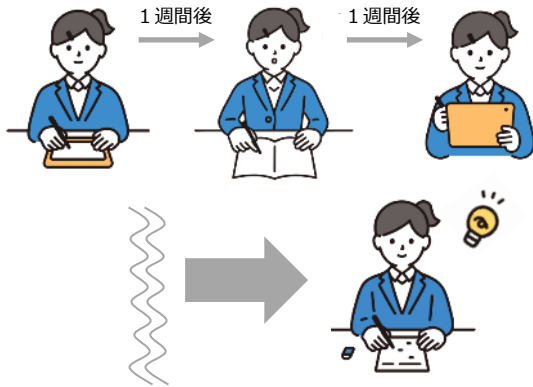
学習目標を達成したか確認したあと、進捗状況に応じて自身の学習方略等を調整する

自己調整学習を促進する教師の関わりの類型

- ① 直接的な方略指導 : 教師が方略を意図的に指導することで、児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ② 間接的な方略指導 : 教師は特定の方略を明示しないが、問いかけ等を通じて児童生徒の方略に対する認識と、具体的な行動を促す
- ③ 学習環境設定の工夫 : 児童生徒が自己調整学習を行う必要がある環境を設定し、児童生徒が自然と方略を工夫していくことを促す

分散学習

時間の間隔を空けて復習することで、長期的に学習内容を定着しやすくする



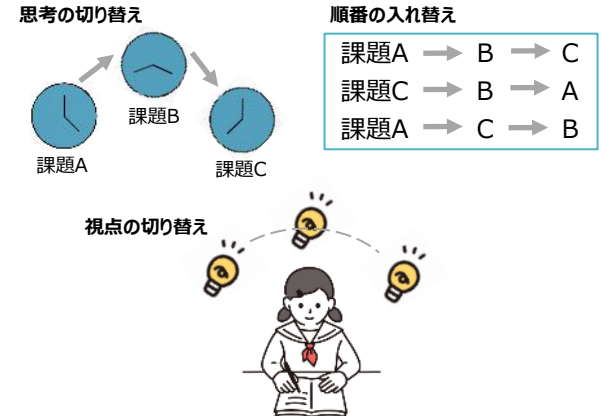
検索練習

学習内容を積極的に思い出す練習をする事で、記憶の定着と新しい状況での応用につながる



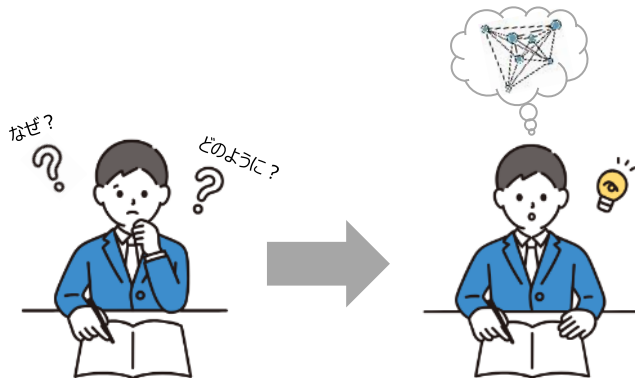
交互配置 (インターリーブ)

同じような問題を解き続けるのではなく、トピックを切り替えながら学習する



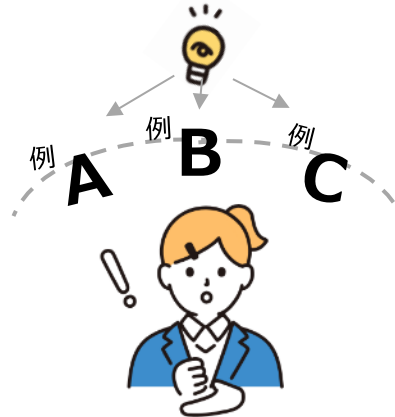
精緻化

理由や意味など、学習している内容に情報を加えて深く、多角的に理解する



具体化

抽象的な概念を学習する際、具体的な例を用いて説明する



二重符号化 (デュアルコーディング)

言語的な情報と視覚的な情報を組み合わせることで、情報を思い出しやすくする



初歩の学習者と上達した自己調整学習者の比較

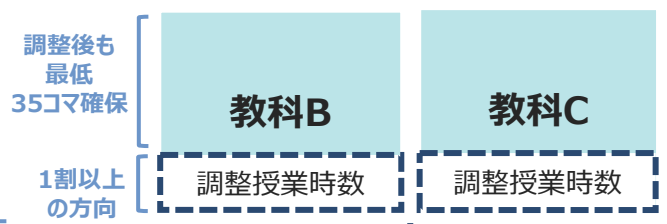
自己調整の段階	自己調整学習の区分	
	初歩の自己調整学習者	上達した自己調整学習者
予見 (学習前)	漠然とした目標 ご褒美や他者より高い成績を得ることを重視 学習に不安を抱き、学習を避ける 課題やスキルに関心がない	具体的で順序立てられた目標 自分の能力を高めることを重視 高い学習意欲 課題に強い興味を持ち、積極的に取り組む
遂行 (学習中)	動揺しやすく、周りの環境に影響される 失敗に備えて言い訳を用意したり、自らハードルを下げたりする 自分の行動を振り返らず結果を過大評価する	学習に集中する 課題の進め方を言葉にしたり、情報を視覚的にイメージしたりするなど方略を意識して学習を進める 自分の行動を振り返りながら学習方法を見直す
内省 (学習後)	自己評価を避け、他者との比較をする マイナスの結果を自分の能力のせいにし、その後の学習方法の改善を行わない	自己評価を行う マイナスの結果を学習方法や練習量に照らして振り返り、改善を行う

調整授業時数制度等の具体化について

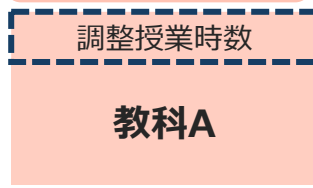
調整授業時数制度の仕組みの方向性 (イメージ)

- 1**
- 標準授業時数が35コマ以下の教科等は調整が可能な教科等（標準を下回って時数を設定してよい教科等）の対象外
 - 「総合的な学習の時間」も調整の対象
 - 調整後の時数は35コマ以上とする

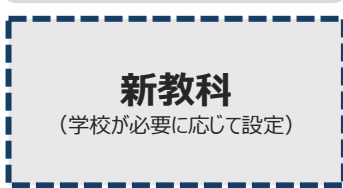
- 2**
- 標準を下回って設定可能な時数幅の上限は、時数調整対象の教科等の1割以上で検討



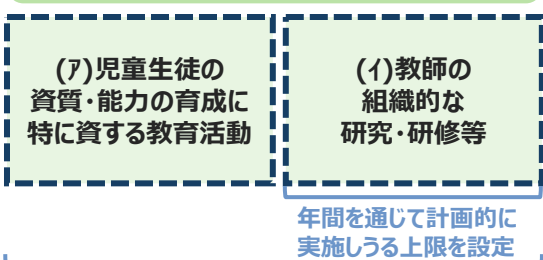
①既存教科等への上乗せ



②教科の新設
※教科B・Cと異なる内容を扱う



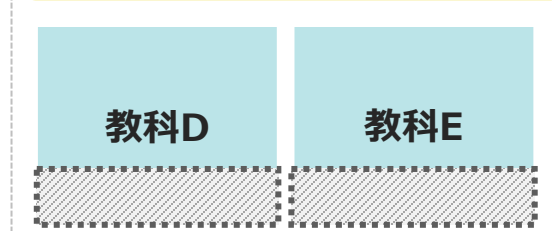
③「裁量的な時間」に充当



生み出した調整授業時数の全体から、③「裁量的な時間」に活用する時間を除いた時数で実施可能

年間を通じて複数の取組を計画的に実施しうる上限を設定

現行の教育課程特例校で認められる特例



既存教科の内容の組み替え
※教科DとEの内容を扱う



現在の授業時数特例校・教育課程特例校制度は調整授業時数制度に統合し、各学校の判断により実施可能とする

既存教科等への上乗せ

- 要件**
- なし
- 上限**
- 調整授業時数の中で活用可能な時数の上限を設定せず、調整授業時数として生み出した時数のうち、「裁量的な時間」として活用する時数を除いた時数で実施可能

新設教科

- 要件**
- 裁量的な時間（学習枠）の要件に加え、新設教科の目標、育成する資質・能力、学習評価の方法が体系的・系統的に整理されていること等の要件を設定

学習枠

- 要件**
- 各教科等の内容に該当しない、もしくはいずれか一つの教科等に当てはめるのが困難な学習活動であること等の要件を設定
- 類型**
- ①個に応じた学習過程の充実に資する取組
 - ②学習の素地を高める取組
 - ③関係性の質を高め、学習の一層の円滑化に特に資する取組
 - ④その他地域等の特色を生かした取組
- 上限**
- 年間を通じて複数の類型に属する取組を実施することも想定し、適切な上限を検討

研究・研修等枠

- 要件**
- 学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的・計画的な取組であること等の要件を設定
- 類型**
- ①質の高い授業を効果的に実施するための教材研究・授業研究
 - ②教師の資質・能力の向上を図るための学校・教育委員会が企画する研修
 - ③児童生徒理解の向上など、学習・指導上の課題解決に資する情報共有・協議
 - ④学校と地域の連携体制の確保
- 上限**
- 「学習枠」の上限の内数として設定。年間を通じて計画的に実施することも想定し、適切な上限を検討

4

5

3

裁量的な時間の要件と類型

学習枠

【取組が備えるべき要件例】

1. 学習指導要領に定める各教科等の内容に該当しない、もしくはいずれか一つの教科等に当てはめるのが困難な学習活動であること
2. 各教科等の内容にも一部該当する学習活動を行う場合は、当該内容について各教科等の教育課程において適切に扱うこととした上で、児童生徒の興味・関心の高まり等を踏まえ、学習を拡充・発展させたり、試行的な取組を行ったり、学年区分を超えて縦割りで実施したりするなどの付加的な学習活動として行うこと
3. 児童生徒の実態を踏まえ、学校教育法に定める教育の目標の実現に特に資すること
4. 各学校の学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的な取組であること
5. 発達の段階に即して適切なものであること
6. 児童生徒の転出入に対する配慮等の教育上必要な配慮がなされていること

【実施可能な取組の類型】

①個に応じた学習過程の充実資する取組

(例) 総合的な学習の時間等で設定した個人探究課題の深掘り、自ら選んだ教科等の学習課題に関して自己調整しながら学ぶ取組、個々の児童生徒のニーズや認知の特性に応じた個別指導や学習カウンセリング、下学年の未習得事項を効果的に学び直すプログラム等

②学習の素地を高める取組

(例) 個人探究を伴う体験活動の充実、企業・団体等とも連携して児童生徒の視野を広げ学習意欲を高める取組、言語能力・情報活用能力の重点的な育成のための取組、認知機能強化に着目した取組、学習方略やメタ認知等に関する体系的指導等

③関係性の質を高め、学習の一層の円滑化に特に資する取組

(例) いじめ防止や安全に関する教育、対人関係の基礎となるソーシャルスキルの育成などの対話的な学習の基礎となる人間関係形成の円滑化に資する学習等

※こうした取組を特に要する児童生徒を対象として行う場合も考えられ、その場合例えば、①や②の取組を実施する場合に、特に要する児童生徒については③を実施するといった実施方法も考えられる

④その他地域等の特色を生かした取組

(例) 特別支援学級・学校との交流及び共同学習、地域の多様な大人と探究的に関わる活動、現代的な諸課題に対応した教育活動を更に深掘り・充実させる学習活動等

研究・研修等枠

【取組が備えるべき要件例】

1. 当該学校の教育課程の編成・実施に係る教師の資質・能力の向上や、学校の組織的な対応力の向上を通じて、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に直結する取組であること
2. 各学校の学校教育目標・教育課程編成に係る基本方針・年間指導計画等に基づく組織的・計画的な取組であること
3. 研究・研修等の趣旨・目的や内容が事前に計画されるとともに、管理職等により実施状況が適切に把握されるものであること

【実施可能な取組の類型】

①質の高い授業を効果的に実施するための教材研究・授業研究

(例) 学校の研究課題に即して行う研究授業・研究協議や、教科・学年等で計画的に行う教材研究等

②教師の資質・能力の向上を図るための学校・教育委員会が企画する研修

(例) 学校・学年等の課題に応じて企画する定期的な研修、教育委員会主催研修等

※裁量的な時間は、当該学校の教育課程に係る教育の質の向上を図るものであり、学校として組織的に実施する研究・研修（学年・教科単位なども含む）以外の研究・研修活動は対象外

③児童生徒理解の向上など、学習・指導上の課題解決に資する情報共有・協議

(例) 教科担任制やチーム学年制などと組み合わせた子供の情報の共有

※単なる打合せや突発的な児童生徒指導事案に関する会議、事務的な情報共有の時間とならないよう、学習や指導の改善と密接に連携させることを前提とする方向性で検討

④学校と地域との連携体制の確保

(例) 企業・団体等と連携した探究学習の実施に向けた研究会、地域の方々と連携したカリキュラム開発に向けた協議等

※各学校が実現を目指す特色ある教育活動を具現化し、質を向上させるのに必要な取組を対象とする方向性で検討

調整授業時数制度に係る質確保のための仕組みの全体像

- 調整授業時数制度については、児童生徒の多様性の包摂に資するため、児童生徒の実態を最も把握している学校現場の創意工夫を活かすことを重視するものであるが、各教科等の時数を標準を下回って実施可能とし、その分の調整授業時数を教科等ではない「裁量的な時間」にも充てることを可能とするという性質に鑑み、適切に資質・能力の育成に資する取り組みとなるようにすることが必要。
- このため、各学校の挑戦や試行錯誤を応援しながらも、国や都道府県・市町村教育委員会が積極的な役割を果たし、効果的な取組となるよう支援するとともに、単なる受験対策への傾倒や、教育の質の向上と関連のない教師の活動の実施など、適切ではない取組の実施を防ぎ、仮にそうした取組があった場合には、改善を図ることができるよう担保する仕組みを設けることが必要。



文部科学省

- ・ 制度の活用状況・実践事例を調査（教育課程編成・実施状況調査）し、結果提供・必要な制度改善
- ・ 先行事例の成果等を教育委員会へ情報提供
- ・ 各都道府県・指定都市教委の指導主事等に向けた研究会・協議会を定期的に開催し、好事例・不適切事例等の周知・適時の指導助言

先行事例の創出

研究開発学校

サキドリ研究校

※サキドリ研究校としての指定は調整授業時数制度導入までを想定

指導・助言、伴走支援

知見の共有

都道府県教育委員会
 ※私立学校担当部局含む

事例や課題の共有

- ・ 私立学校への情報共有・助言等
- ・ 必要に応じて公立学校担当向け研修への参加を認める

- ・ 制度の活用状況の把握
- ・ 知見の共有・情報提供
- ・ 市町村教委の指導主事や公立学校等向け研修の実施

市区町村教育委員会

教育課程編成届の提出

指導・助言、伴走支援
 不適切な運用の改善

制度の活用方針を含め
 教育課程編成の
 方針について承認

学校運営協議会

保護者・地域住民等

各学校

学校運営の基本方針とともに、制度の活用状況についてHP等で公表

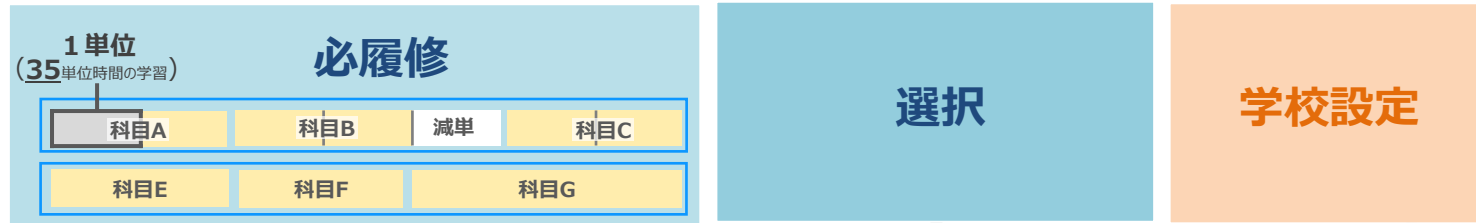
児童生徒の実態を踏まえて調整授業時数制度の活用を検討

高等学校の単位制の大幅な 柔軟化について

高等学校の教育課程の柔軟化の仕組みの方向性（イメージ）

(週当たり授業コマ数)

1 2 3 ... 28 29 30 コマ



2 1単位の計算
50分×17コマで1単位を標準
(新しい算定による単位を便宜的に「新単位」という)

1 柔軟な組み替えを可能に
・「各科目内容の一部または全部について他科目への移行・統合」し、科目の柔軟な組み替えを可能に
(具体例)
・理科の基礎系科目を統合
・国語科と探究を組み合わせ
・数学Ⅰと学び直しの学校設定科目を組み合わせ 等

組み替えの要件のポイント
①元の教科・科目の目標の趣旨を損なわない
②教育課程全体として、組み替え前と同様の成果が期待される
③カリキュラム・ポリシーとの関連で、変更の趣旨・内容を公表し、生徒・保護者等に説明する

科目の内容の取扱い
・従前同様、生徒の実態を踏まえ特に必要な場合は「基礎的・基本的な」事項に重点を置くなど内容を選択して扱うことが可能
・その上で、「発展的・探究的な」事項に重点を置いた選択的な取り扱いも可能とする

5 学校設定教科・科目の単位数の上限
卒業単位に含められる学校設定科目の単位数上限について
普通科 ⇒ 28単位
その他普通教育を主とする学科⇒36単位に増加させることの適否を検討



3 減単の考え方
・「一定の限度の下で減単可」という考え方が基本
・現在減単できない標準が2単位の必修修科目についても、1新単位の範囲内で減単を認める
・各必修修「教科」に係る科目の履修単位数の合計が3新単位以下となる減単は不可
(公共、芸術(音楽Ⅰor美術Ⅰor工芸Ⅰor書道Ⅰ)、情報Ⅰ、家庭基礎)

4 科目の履修免除の要件のポイント
①社会的信頼性が確立した外部試験により、免除科目の知識・技能の習得が概ね判断可能
②振替科目等の履修により、免除科目の資質・能力を発展的に育成可能で、総合的な代替性がある
③生徒の実態・希望を踏まえ、資質・能力の育成に大きく上回る成果が期待できる

履修免除の対象科目
・外国語・数学を対象に制度運用を開始していくことを念頭に検討
・具体的な外部試験の種類や、履修免除に必要な級の水準等については、外国語WG及び算数・数学WGにおいて議論

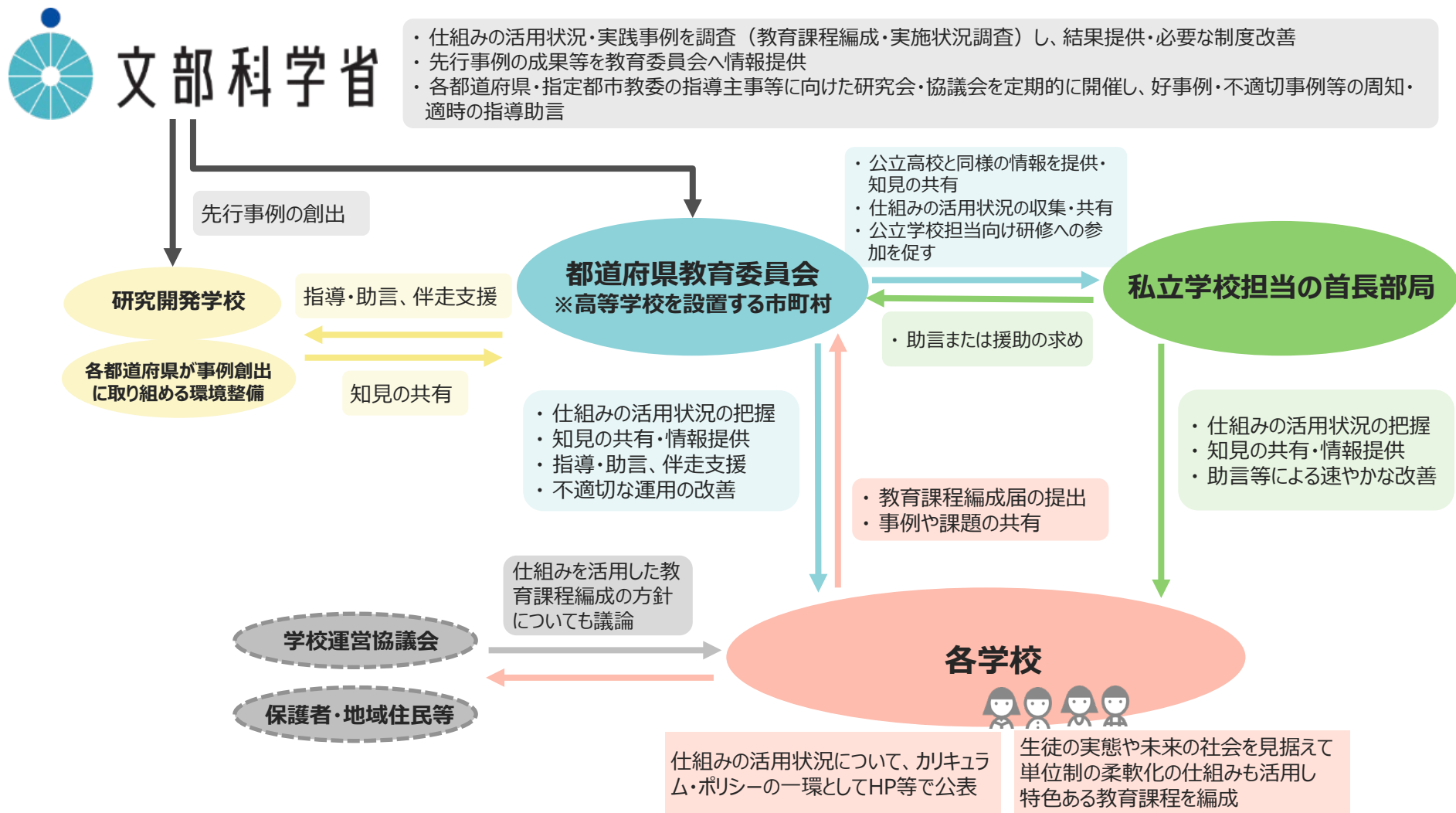
6 必要な改善
・質確保のための仕組み
これらの仕組みの不適切な運用を防ぎ、国・都道府県等・各学校が必要に応じて改善を図り、質を確保できるようそれぞれの役割を整理(補足イメージ②参照)

週当たり授業時数の標準は示さない コマ

週当たり授業時数
標準を示さない
(現在週当たり30コマが標準)

単位制の柔軟化に係る教育課程の質確保のための仕組みの全体像

- ①～④にて検討した単位制の大幅な柔軟化は、多様な生徒一人一人に応じる学習の充実や、これからの社会変化を牽引する各学校の大胆な教育課程編成を支えるものであるが、高等学校教育の質低下を招いたり、大学入試対策に過度に傾倒した運用を防ぐ観点から、国や都道府県（高等学校を設置する市町村を含む）、各高等学校がそれぞれ効果的な取組となるよう積極的な役割を果たすとともに、適切ではない取組の実施を防ぎ、仮にそうした取組があった場合には、改善を図ることができるよう質を確保するための仕組みを設けることが必要。



学習評価の在り方について

「学びに向かう力・人間性等」の特質に応じた新たな観点別評価

【論点整理で示した改善の狙い】

論点整理では、以下のような改善を意図した「学びに向かう力・人間性等」（以下「学びに向かう力」）の評価の改善が提言された。

- ◆ 形式的かつ過度な評価材料集めを抑制しつつ、多様な子供達一人一人の良さを成長を肯定的に評価できるよう、実質化を図る
- ◆ 「思考・判断・表現」の過程で一体的に見取ることとし、学びの主体的な調整が必要となる学習課題を核とした指導・評価の改善を促す

具体的には、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」（以下「思・判・表」）は従前同様に目標に準拠した観点別評価・評価を行うこととしつつ、「学びに向かう力」については「総合所見欄」における教育課程全体を通じた個人内評価と、各教科等における「思考・判断・表現」の観点別評価への「○」の付記を組み合わせた評価方法を導入することとし、「学びに向かう力」という資質・能力の特質に合わせた評価方法への改善を目指すこととした。

【更なる検討課題と方向性】

①「学びに向かう力」の評価における「○」の付記の具体的な運用方法

（方向性）各教科等ごとに示す「見取る姿（仮称）」（※1）をできるだけ長い期間を通じ、全体として「継続的な発揮」を見取る

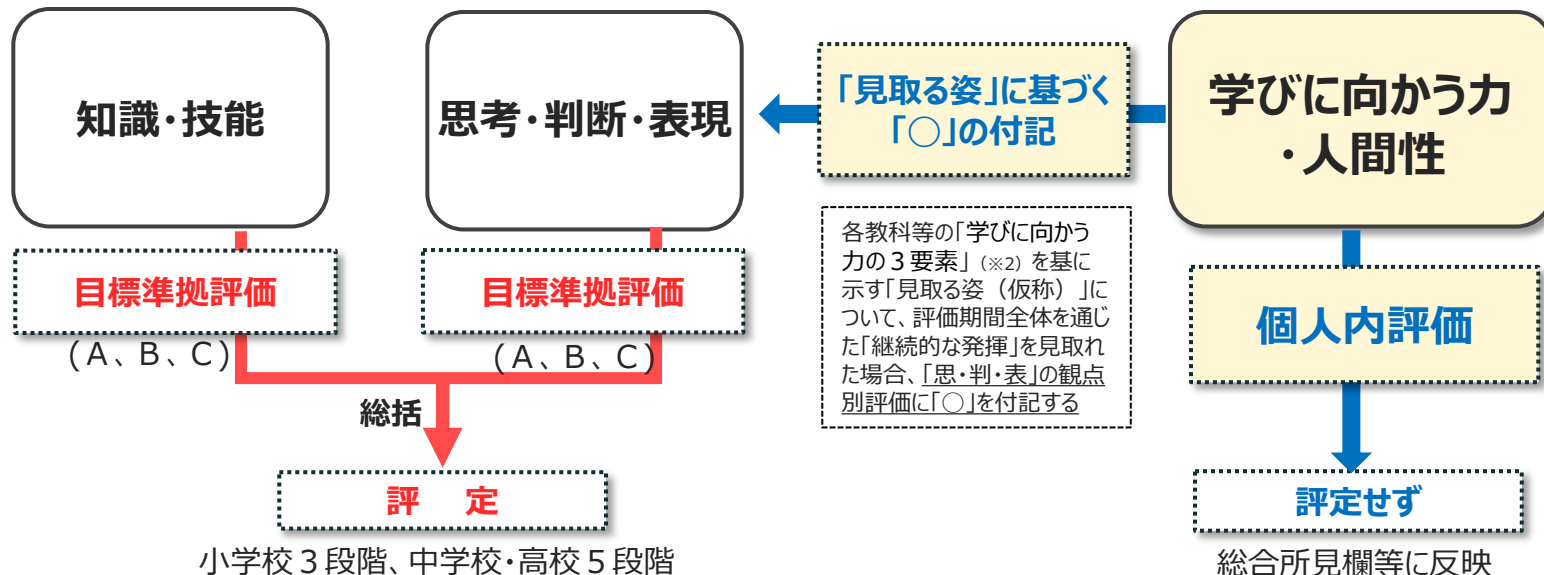
「学びに向かう力」が「思・判・表」と一体的に表出し、学習評価では不可分。「○」は「思・判・表」の観点別評価を介し、一体的な勘案の結果として評価にも影響

②「高次の資質・能力」の関係性の整理

（方向性）「高次の資質・能力」は直接の評価対象とはせず、教師が単元を構想し、「深い学び」の実現に資する学習過程や評価課題のデザインに活用するなど、指導や評価の改善に活用

③シンプルで資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの整理

（方向性）新たな学習評価の仕組みを学習・授業の改善に結びつけていくことができるよう、学習評価の手順をシンプルに再整理し、「文書作成」のプロセスとしてではなく、指導と評価の「構想」のプロセスとして示す



(※1) 国において示し、各学校がそのまま活用可能なものとする前提で検討

(※2) 「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」

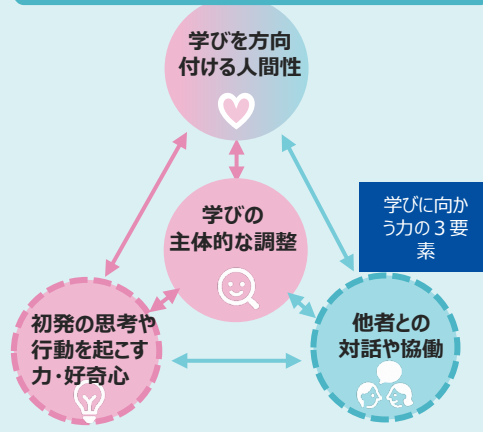
「学びに向かう力・人間性等」の「○」の付記の運用について

1 授業改善



「見取る姿(仮称)」を思考・判断・表現の過程の中で見取れるように授業改善

「学びに向かう力・人間性等」の要素



「学びに向かう力・人間性等」の目標

(中学校数学の例)

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとする態度を養う。
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとする態度を養う。
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。
- 数学の社会的有用性、美しさ、楽しさなどを感じる感性、想像力、直観力などの創造性の基礎を育む。

「見取る姿(仮称)」

「学びに向かう力」の「○」の付記に当たっての着眼点となる、思考・判断・表現の過程で見取る具体的な児童生徒の姿

(中学校数学の例)

- 事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見だし、数学を活用しようとしている
- 他者と数学的論拠に基づいて協働し、問題解決を進めようとしている
- 問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている

2 見取る



「見取る姿(仮称)」に即した行動が徐々に増え、様々な学習場面で安定して表出するようになった、「継続的な発揮」を見取ることができるか？



(※ 1) 評価期間の初期は表出しにくても、徐々に継続して発揮するようになる子供もいることに留意

3 評価の総括

観点別評価・評定の指導要録記載イメージ

知識・技能	A	総括
思考・判断・表現	B	
学びに向かう力	○	
評定	4 or 5	

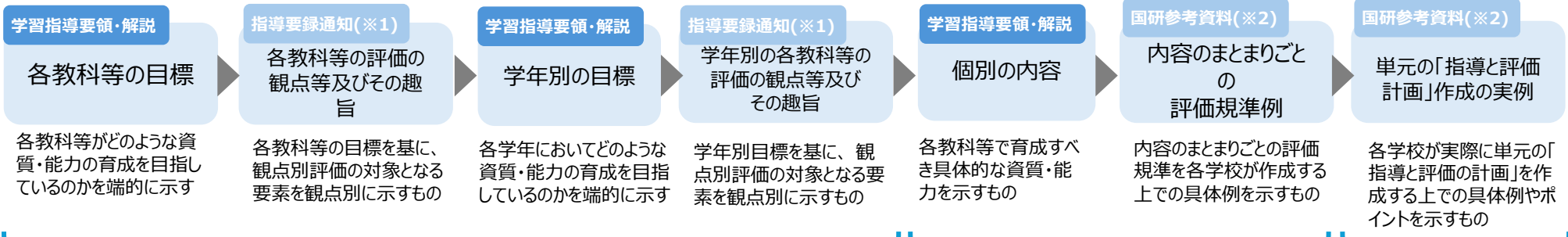
(※ 2, 3)

↑ 一体的に勘案 ↓ 独立して影響しない

一体的な勘案の結果として、評定を 4 とするか 5 とするか総合的な判断

(※ 2) 「学びに向かう力」については、学習評価の実施に際しては「思・判・表」の過程で見取るため要録上は「思・判・表」の欄と一体的に記載するが、育成する資質・能力の柱として「思・判・表」の一部となったわけではないことに留意
(※ 3) 観点別評価欄とは別に、総合所見欄において「学びに向かう力」全体の育成状況について個人内評価を記載することとなる

国が定める基準・参考資料



確認

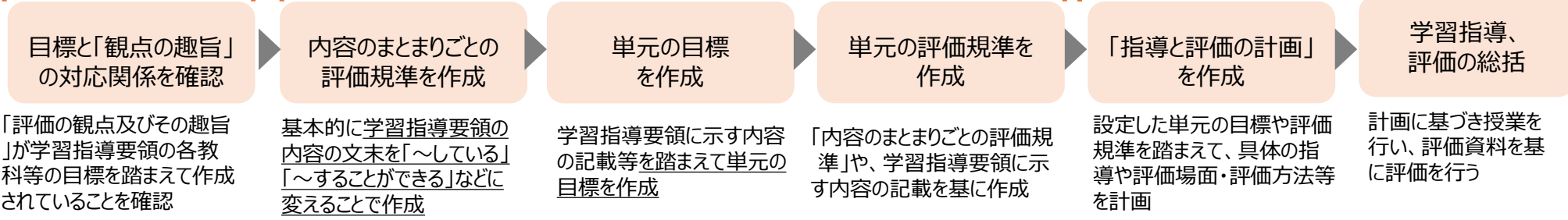
参照すべきものが多く、プロセスが複雑
 プロセスが文書作業ベースで、指導との関連を見出しにくい

基に作成

指導要領から転記するものが多く、教師が専門性を発揮するポイントが見えづらい

参照・活用

ICTや生成AIの利用等が前提となっていない
 総括的評価のプロセスは具体的だが形成的評価の記載が薄い



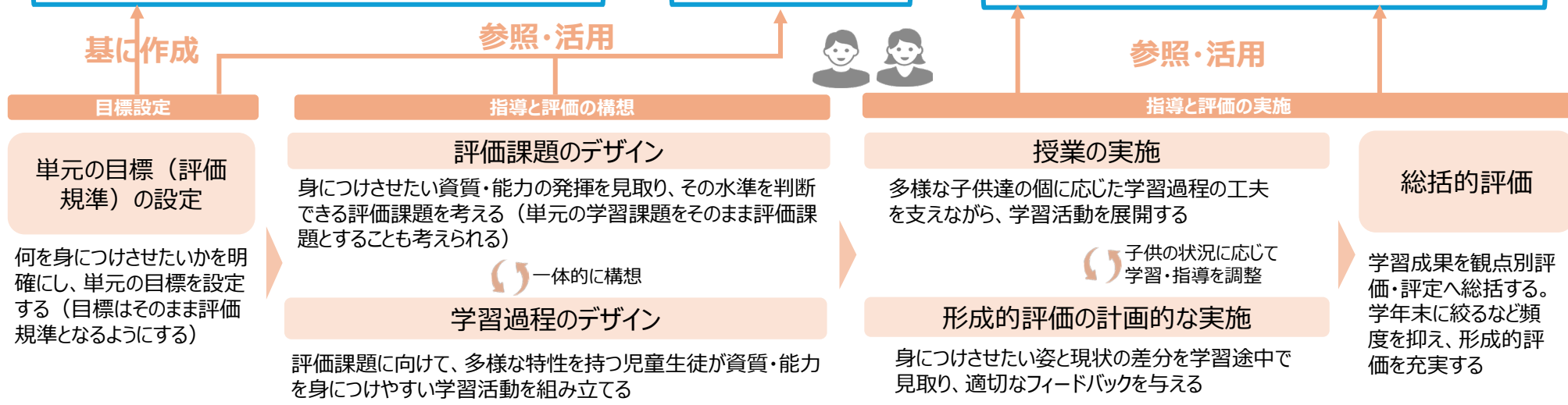
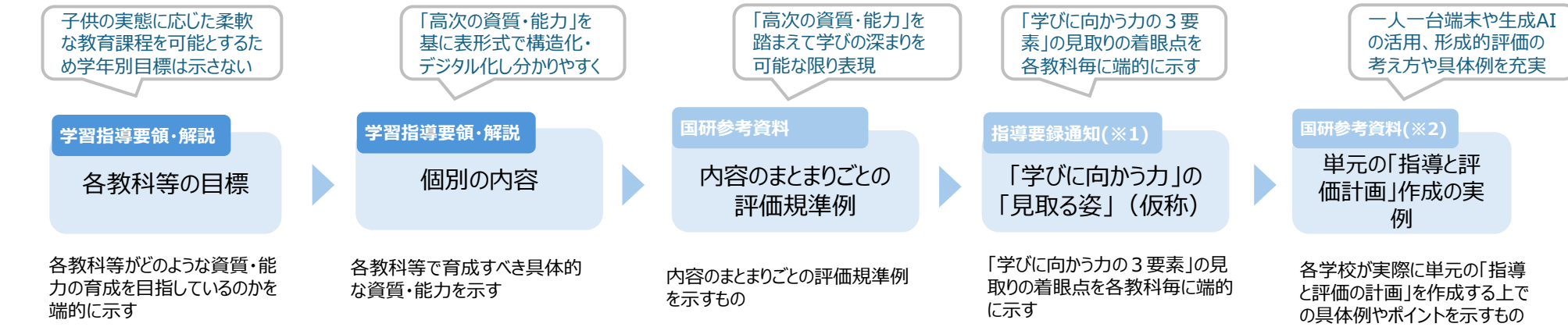
各学校で行う学習評価の手順例

※各教科等によって若干の違いあり

(※1) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）別紙4 別紙4 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）別紙5 別紙5 各教科等の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）
 (※2) 国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）
 指導資料・事例集 | 教育課程研究センター | 国立教育政策研究所 National Institute for Educational Policy Research

資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの再整理 (案)

国が定める基準・参考資料



各学校で行う学習評価の手順例